

令和 6 年度 学校関係者評価委員会評価報告

令和 6 年度 学校関係者評価委員会

日時：令和 7 年 3 月 29 日（土）13:00～15:00

場所：十全看護専門学校

学校関係者評価委員

桃山学院大学教育研究所名誉所員 岡田 千歳

愛媛労災病院 看護部長 高橋 令子

愛媛大学医学部附属病院 副看護部長 山岡 多恵

[総 評]

今年度は新しく評価委員に高橋令子氏と山岡多恵氏を迎えた。それぞれ専門の立場から寄せられた評価を総合し、以下の通り報告する。

まず最初に、嬉しい報告があった。今年度の第 114 回看護師国家試験に全員合格（合格率 100%）という、輝かしい成果をあげられたことである。これは貴校の教職員の並々ならぬ努力と、個々の学生に対する懇切丁寧な指導、そして学生達と共に一致団結して目標に向かって励んだ結果である。高く評価すると共に、心から称賛する。

重ねて、本年度は新カリキュラム移行後の初めての学生が全員無事に卒業できたことも、順調に新カリキュラムが履修されていることの証であると評価する。

一方、全国的な問題ではあるが、高等教育機関にとって看過できない重大な問題も起きている。18 歳人口の減少である。日本の人口は前年度に比べて約 89 万人の減少だと報じられた。全国の大学や専門学校など多くの高等教育機関では、受験者数・入学者数の減少に歯止めがかからず、学生の確保が大きな問題となっている。

貴校でも学生募集のために、広報活動やオープンキャンパスなど、様々な工夫をされているが、大きな時流のなかでは効果的な方策を見出すのは非常に困難な状況にある。この対策には、単独の機関だけではなく、広く地域全体で医療機関や他機関とも連携して、お互いに共存できるような対策を早急に考慮する必要がある。

[特筆すべき高評価の項目について]

1. 科目担当者の自己評価

貴校の専任教員が自己点検、自己評価を実施している。目的は「看護師養成機関としての水準の維持・継続と創意工夫のある教育の追求を計るため」である。これは、「言うは易く行うは難し」で、どの職業人にとっても非常に困難な課題である。

しかし、この数年、貴校では担当者全員が自己評価を繰り返し、それを公表して真摯に反省点を見出し、次年度の教育に反映させてきた。その成果として、本年度は自己評価も十分に高い位置まで引き上げられて、満足のできる数値になっている。本当に素晴らしいシステムと称賛する。こうした姿勢が、学生達や実習機関の人々の信頼得る大きな力になっていると考える。今後もぜひ続けてほしい。

2. 学習過程における可視化

貴校では行事や実習、学期末など機会がある度に、学生の意見やアンケート、グループディスカッションなどを通して得た学習成果を記録し、各学年ごとに冊子にまとめて刊行している。学生たちにとっても教職員にとっても、こうした冊子による学習の可視化は、次へ目指すための自信となり、先輩たちの冊子を読むことにより、今後の学習の指針を得ることができる。また、大勢の異なった意見や経験を知る機会でもあり、高く評価する。

編集には多大な時間と労力が必要だが、学生ばかりでなくご家族にとっても、実習などに関わった外部の関係者にとっても、読むことによってそれぞれに得ることの多い貴重な冊子である。配布する範囲は限られるかもしれないが、学生の出身校や広報活動の一環としても価値ある冊子と言える。今後ともぜひ続けていただきたい。

3. 十全総合病院との連携

貴校の特徴の一つとして、同じ法人である十全総合病院との協力体制が整っていることがあげられる。少ない教職員ながら、隣接する病院との連携で、科目の担当、実習などに効率よく充実した教育を行うことができている。このことは同法人ならではの強みであり利点である。学生にとっても非常に恵まれた環境にあるといえる。今後ともより密接な協力体制を進めていただきたい。この点も広報活動に是非明記されたい。

【今後の問題点】

1. 教員不足の問題

この問題は、過去数年以上継続して取り上げてきたが、なかなか問題解決に至っていない。定年退職者の補充、実習指導当者（来年度は1名補充の予定）、科目担当者など。少ない人数でこれだけの学習成果を上げるには、教職員に過大な重圧がかかっていると推察する。同法人の十全総合病院との良好な連携で、これまで何とか無事に既定の学習目的を遂行することができた。しかし、現状に甘んじることなく、双方の機関に過度の負担がかからないよう、早急に改善されることを期待する。

2. 学生の確保

前述の通り、全国的に18歳人口の減少が続いている。従来の広報活動に加えて、さらに入試時の推薦条件の緩和・入試の実施時期・入試回数等々、より多くの学生の確保に向けての工夫が必要と思われる。

（「個々の項目について」の「V.入試」の項を参照）

【個々の項目について】

I. 教育理念・教育目的

授業内容や実習の結果などにより、学生は貴校の教育理念・目的を理解し、教員はそれに沿って教育しており、学生の個性も考慮した支援が充実している。

II. 教育目標

アンケート結果においても授業内容にほぼ満足していること、目標別到達度評価においては、どの項目も 75%以上達成できている。このことから、目標設定と内容が一致しており、取り組みが明確となっていると評価する。

また、看護研究は事例検討と看護研究に分かれて進められている。事例検討でも文献を活用した考察がなされ、研究的視点を養うことができるようまとめられていた。看護研究は、3題とも質的記述的研究であり、時間と労力をかけ論文を作成されている。指導された方の助言や支援があり、看護師として学習を深めていくことの重要性を実感でき、目標は達成できていると考える。今後は円滑に看護研究をすすめるために、実習調整し学生に不公平感がでないことを期待する。

III. 教育課程経営

3年間という限られた時間の中で効果的にカリキュラムが計画されている。臨地実習場所においては、十全総合病院を中心に外部実習場所も確保され、地域に根付いた看護師育成に充実した実習内容となっている。安全確保やプライバシー保護に問題はない。教員不足の問題については、ICT教材の活用や外部講師の獲得等工夫されているが、引き続き負担軽減の対応が望まれる。

IV. 教授・学習・評価過程

授業内容に応じて授業形態を工夫し、学生に対して効果的な内容にするためにアンケートや理解度を振り返り変更・改善されている。ICTの活用や授業時間数の変更など、規定範囲内で柔軟な対応をしている。学習管理システムを活用し、弱点克服対応や履修状況の偏りを防ぐ工夫もされていること、実習場所は希望調査を行うなど自ら学ぶ姿勢を促す取り組みは高評価に値すると判断する。

一方、「人体の構造と機能Ⅰ」は、通年学生の理解を深めるため、さまざまな工夫がされているが、なかなか成果がみえない状況が伺える。看護師として必要な知識であるため、引き続き対策を講じてほしい。

統合実習では、「自由課題実習」として実習場所を希望し、目標や課題をもち学生自身が主体的に学ぶ機会となっている。また、保護者を招いて成果発表し共有していることも、相互理解を深めモチベーションの向上に繋がっていると考える。

V. 経営・管理過程

少子化及び大学全入時代に伴い、学生の確保が難しい中、経営コンサルタントを導入し、広報活動を戦略的に行っている。さらにオープンキャンパス（6回/年）を開催し、インスタグラムや高校訪問など幅広く広報活動を行い、その活動を評価しながらPDCAサイクルをまわし尽力している

学生生活支援については、修学できるよう授業料免除や課外活動、学内食事の工夫等、多角的に支援を整えている。今後は、教職員の任用、組織体制について明確にし、教職員の福

利厚生等の充実を期待する。

VI. 入学

早期囲い込み戦略として地域ぐるみで看護師を目指す人を創出することは、非常に意義がある。貴校だけでなく地域が一丸となり取り組む必要がある。引き続き広報活動や啓蒙活動をすすめていただきたい。

学生確保のため総合型選抜入学試験の導入や推薦条件の緩和（偏差値の評定平均を下方修正）など、今の時代にあったさまざまな募集活動を検討されている。

資料では入学者の状況・推移が示され分析されている。学生確保に向けての戦略も考えられており効果を期待する。

VII. 卒業・就職・進学

卒業時の到達度が明確にされており、分析に基づき計画的に支援している。ICT を活用した学習状況の可視化で学習進度を教員が把握し、必要な助言ができています。公開模試への参加なども経験値をあげることができ、看護師国家試験合格 100%という大きな成果に繋がった。教員の方々が学生に寄り添って支援された成果と考える。さらに卒業生の情報もキャッチし卒業後の支援にも力を入れているのは、貴校の教職員の学生達（卒業生も含めて）に対する愛情と熱意が感じられる。

VIII. 地域社会・国際交流

教科外活動としてボランティア活動に積極的に参加し、継続的な活動が評価されて、令和 5 年ソロプチミスト日本財団学生ボランティア賞、令和 6 年は愛媛県優良青少年団体表彰に推薦されている。また、国際 meet up! クラブの活動は、国際交流として有益であり、学生の社会人基礎力を向上させる機会となっている。今後は学年を横断した交流を強化する基盤づくりにより、さらなる人間力の向上に期待する。また、留学生の受け入れも視野に活動すると人員確保にも繋がると考える。

IX. 研究

教員は講義、実習担当、教科外活動など多忙を極めている。オンライン講習など活用して研究にも取り組んでいる。また、専任教員交流会にも参加しているが、もう少し自身の研究の時間でもある。さらに今後は、教員のメンタルヘルスを大切にすることも必要であり、メンタルヘルス研修開催も検討されてはどうかと思う。